

11/1（日） H27年度ボランティアのつどい 参加人数

●来場者（含 出展者／シンポジウム／医療フォーラム参加者）
454 人

●出展団体
63 団体

●スタンプラリー
89 人

●豚汁ふるまい
300 人

●大交流会
55 人

《同時開催》

★シンポジウム
104 人

★医療フォーラム
60 人

「ボランティアのつどい」に参加してみても



次への「扉」を開く 大交流会を開催

実行委員の一人として大交流会に参加しました。私自身がこのつどいには初参加でした。長年ボランティア活動してきた人、活動を始めたばかりの人、出会いを求めて参加した人などそれぞれ思いを持ちながら、最初は少し堅い感じでしたが、少しずつ打ち解けあい和やかな雰囲気であら

が進みました。

長野工業高等専門学校の学生による誰もが使いやすい福祉機器の開発やパソコン技術を教えるボランティア、同じくパソコンを学びながら活動しているグループ、農業体験を通して農業の大変さや収穫の喜びを分かち合う活動、お手玉づくりをしながら文化を継承していく活動など話してもらいながら交流が進みました。

長年心の病を患って生活してきた男性は、昨年就労ができて職場の仲間にも恵まれ、前向きに生活できるようになったことを話してくれ、今回も「新たなつながり」を求めての参加でした。交流会に参加すること自体が次への扉を開くステップになっているようです。またお会いした時に「あの時はどうも」「最近活動はどう?」「元気でやっている?」「今度一緒に活動しない?」なんて笑顔でお互いに声がかけられるといいですね。
(長野市地域包括支援センター 吉田 遠藤茂彰)

充実感がいっぱい! ボランティア初体験

社会に出て、自身の経験や知識の少ないことに気づき、社会と関わるためにボランティアを始めようと思いい、「ボランティアのつどい」にスタッフボランティアとして参加しました。

当日は大変緊張しましたが、「豚汁のふるまい」を担当したことで、役割ができた責任感を持って活動できました。終わった時は充実感でいっぱいでした。他のスタッフから「ボランティアは自分の余裕のある範囲でやるもの」「楽しみを持ってやるのが大切」とアドバイスをもらいました。

ボランティアという災害ボランティアのような「苦勞をして相手の役に立つ」という印象を持っていましたが、自分のできること(技術や特技)を活かして社会のために働くことが大事だと学ばせてもらいま

した。

当日話をした
長野市立博物館
へは後日見学に

行き、小中学生の木工体験を手伝い、つながりを持つことができました。

今は、これからどういふ方と知り合うのか、緊張・不安と楽しみの混ざり合った気持ちでいっぱいですが、「つどい」のテーマにあったように「ボランティアのトビラ」を次々に開けていきたいと思えます。(石澤 淳)

